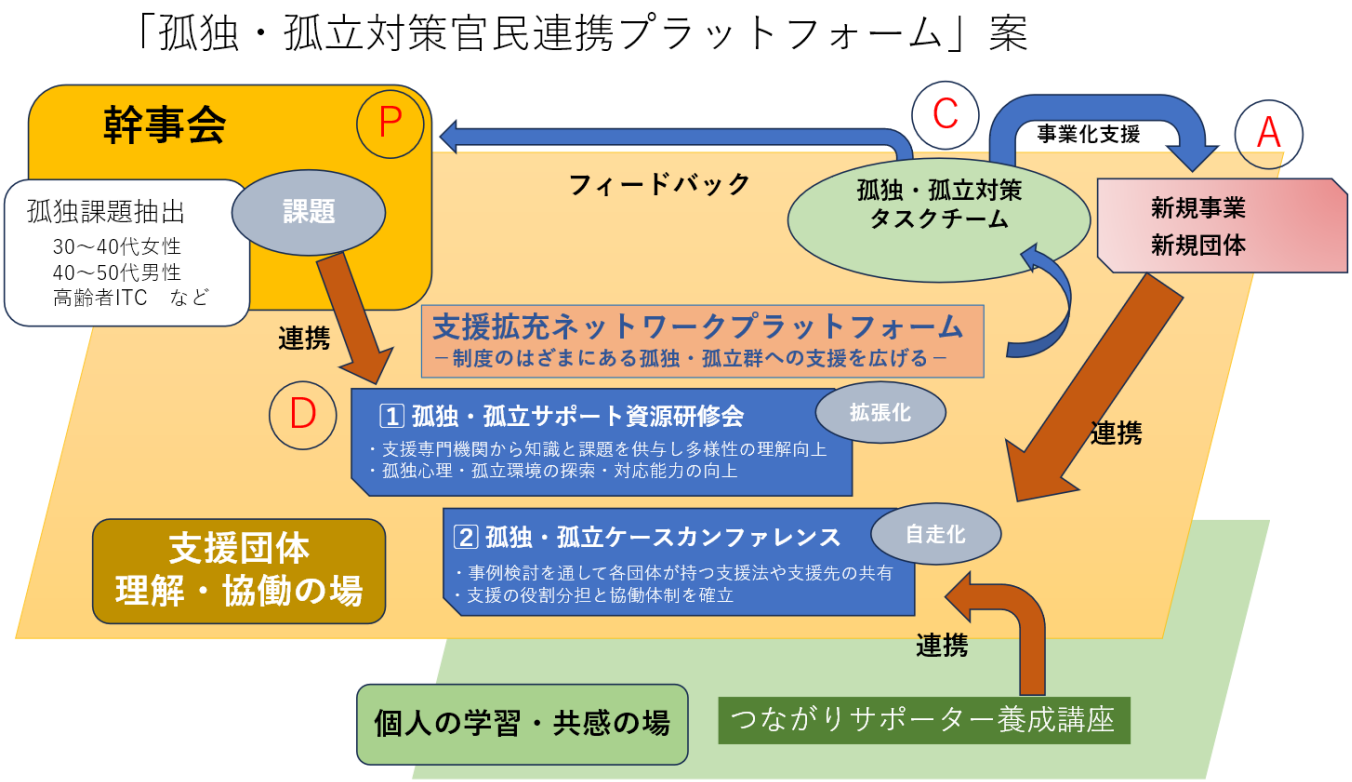
資料５

今後の取組み方針について（案）

令和６年のプラットフォーム設置から、勉強会を開催して会員の共通理解を図り、会員の顔の見える関係づくりや連携の促進に取り組んできた。また、つながりサポーター養成講座や市町村職員向けの研修、県民向けイベントを開催し、「声を上げやすい、声をかけやすい社会」に向けた県民の意識醸成にも取り組んできている。これまでの取組みと、内閣府の「孤独・孤立対策に関する施策の推進を図るための重点計画」の内容も踏まえ、また、プラットフォームの活動を継続的なものとするために、今後の取組みの方向を以下のようにしてはどうか。

１　取組み体制

プラットフォーム会員の主要メンバー（＝タスクチーム）が、運営の中心となり、勉強会の計画やプラットフォームによる具体的取組みの検討を行う。



２　今後の取組み案

○富山県版の社会的処方の取組みの検討

内閣府重点計画では、悩みを抱える当事者を、必要に応じて居場所や行政・地域団体などの必要な地域資源に適切につなげていく「社会的処方」の取組みを推進していくこととしており、官民連携による切れ目ない支援体制の実現に向けて、富山県の実情に即した具体的な取組みを検討していく。

・定期的な勉強会（ケースカンファレンス）の実施

事例の検討により、現状で不足している支援、必要な支援体制を考える。

（資料６：R8 勉強会年間計画）

・タスクチームで具体的な施策を検討

ex)付き添いサポーター、おしゃべりベンチ

・県民（支援に繋がりにくい層）向けの企画・居場所づくりの継続的な実施

男女別リスクの減弱因子の分析（資料３）では、30 代 40 代女性では、相談相手・直接交流・電話交流、40 代 50 代男性では頼れる人の存在が減弱因子との結果から、相談相手を作りやすくする交流の場の提供が有効と考えられる。

本年度実施した「富山つながりフェア」では、ターゲット層へのアプローチに課題があったことから、今後は対象を明確化した取組みを検討する。

ex）対象を 30 代 40 代女性に絞った事業の実施

民間企業との連携の模索